

子どものセーフガーディング

実践のための団体支援および研修実績

<p>2019年4月～ 2020年3月</p>	<p>外務省 NGO 研究会「日本の国際協力 NGO における『セーフガーディング』の取組促進のための提言とガイドラインの作成」事業を受託</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和元年度 NGO 研究会完了報告書.pdf ➤ 「子どもと若者のセーフガーディング最低基準のためのガイド」の発刊について ➤ 子どものセーフガーディング基礎&強化ワークショップ(NGO 対象) 開催 ➤ 子どもと若者のセーフガーディング 関西プレ・セミナー 開催 ➤ テーマ別研修（職員採用時の手立てと日本の法律）共同開催 ➤ テーマ別研修（子どもの性的被害の理解と予防・対応）共同開催 ➤ 子どもと若者のセーフガーディング 関西公開セミナー 共同開催・登壇
<p>2019年5月</p>	<p>JANIC「子どもと若者のセーフガーディング・ワーキンググループ」を立ち上げ</p>
<p>2019年11月</p>	<p>子どもの権利条約フォーラム 2019 セーフガーディング分科会 共同参画</p>
<p>2020年</p>	<p>外部組織・ネットワークの研修に講師派遣 2件</p>
<p>2020年9月</p>	<p>「子どもと若者のセーフガーディング」ウェビナー2020 共同開催</p>
<p>2020年10月～ 2021年2月</p>	<p>新型コロナウイルス対応緊急支援に携わる 17 団体との合同セミナー 複数回開催</p>
<p>2021年7月</p>	<p>国内の子ども支援団体向けセーフガーディング研修 主催</p>
<p>2021年1月～ 2023年3月</p>	<p>国際協力機構「NGO 等提案型プログラム」の一環として「子どもと若者のセーフガーディング実践研修事業」を受託</p> <p>セーフガーディング実践研修事業 プログラムの概要.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「子どものセーフガーディングに関する申し立ての管理と対応」和訳版発刊 ➤ 10 回の連続研修や勉強会を通じ、16NGO を伴走支援 <p>子どもと若者のセーフガーディング実践研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【活動報告】国際協力 NGO のための「子どもと若者のセーフガーディング実践研修」スタート • 【活動報告】セーフガーディングのリスクや指針をテーマに勉強会を実施 • 【活動報告】子どもへの性暴力を正しく理解し、より安心・安全な活動へ • 【活動報告】法的観点から人材募集の留意と事後対応を学ぶ • 【活動報告】セーフガーディングの申し立ての管理に関する研修 • 【活動報告】連続研修の完了とシンポジウム 2022 <p>➤ 子どもと若者のセーフガーディング・シンポジウム 2022</p>

2022 年 4～7 月	国内の子ども支援団体 9 団体を対象に 4 回の連続研修 主催 【活動報告】「子どものセーフガーディング連続研修 2022」が始まりました
2021 年	外部組織の研修に講師派遣 2 件
2022 年	外部組織の研修に講師派遣 2 件、伴走型支援 3 件
2023 年 8 月～ 2024 年 1 月	国内の子ども支援団体 9 団体を対象に 6 回の連続研修 主催 子どものセーフガーディング連続研修 2023 【活動報告】子どものセーフガーディング連続研修 2023
2023 年	外部組織・ネットワークの研修や学術大会に講師派遣 12 件
2024 年	外部組織・ネットワークの研修やシンポジウムに講師派遣 16 件
2024 年 10 月～ 2025 年 2 月	国内の子ども支援団体 5 団体を対象に 5 回の連続研修 主催

上記の他、セーブ・ザ・チルドレンの助成プログラムにおいては、採択されたすべての助成先団体を対象にセーフガーディングの研修を行い、またその実践のための伴走型支援を行っています。

研修に参加された方々の声

セーフガーディングを整備することが、子どもはもちろん団体や個人を守ることにつながることを学びました。また、子どもから高齢者のみならず、今後事業を実施するためにスタッフ同士でこのことを共有、胸に刻み、実施していきたいと強く感じました。

個々人の意識を高めていくだけでなく、明文化されたポリシーや規範と、それを実効あるものにするための体制、教育、情報、制度をセットで考えて取り組む必要があると痛感しました。

通報相談体制をどうすべきか迷っていたところです。理論だけでなく、ロールプレイを通じて具体的にイメージでき、とても参考になりました。自分たちの団体での窓口とその後の対応フローチャート作りに着手していきます。

団体でセーフガーディングに取り組む中では、しばしば孤立感みたいなものがあつたのですが、研修をご一緒したみなさんの熱心さに触れてそれが和らぎました。どの団体も悩みながら進んでいることがわかり、励みになりました。

セーフガーディングに関する研修や講師派遣のお問い合わせは、japan.csdesk@savethechildren.orgにて賜っております。